

産業標準案作成対象テーマの審議について

日本産業規格（JIS）の制定、改正又は廃止のための産業標準案（以下、JIS 案という。）の作成に着手するに当たっては、当会認定産業標準作成機関 JIS 案作成規程に基づき、当該 JIS 案作成対象テーマが適切であることについて、主務大臣による事前調査、及び JSA 事務局による“JIS 案の作成開始要件”を満たすことの事前確認を経て、産業標準作成委員会にお諮りすることとなっております。

つきましては、次ページ以降の JIS 案作成対象テーマについて、理由（必要性）及び期待効果、JIS 案の作成開始要件への適合状況、作成開始予定などを記載しておりますので、JIS 案の作成に着手してよろしいかご審議をお願いいたします。また、産業標準作成委員会の下に JIS 素案の調査審議及び作成を行うための WG を設置することについても併せてご審議をお願いいたします。

なお、字句等編集上の修正については、産業標準作成委員会事務局に一任いただきますようお願いいたします。また、ご承認いただいた JIS 案作成対象テーマは、利害関係者に公表するために JIS 作成予定一覧表として JSA ウェブサイト掲載いたします。

※選定基準 3（産業標準化の利点・欠点）各コードの内容につきましては、
下記リンク先の 5～6 ページにてご確認いただけます。

「産業標準案等審議・審査ガイドライン」

URL <https://www.jisc.go.jp/jis-act/pdf/shingishinsa-guideline.pdf>

産業標準案作成対象テーマ一覧(改正)

認定機関	産業標準作成委員会	制定／改正／廃止	規格番号	JIS案の名称	JIS案の英文名称	改正する理由（必要性）	期待効果	規定項目又は改正点	制定・改正に伴う廃止JIS	対応する国際規格番号及び名称	対応する国際規格との対応の程度	選定基準1 (JIS法第2条の産業標準化の対象)	選定基準2 (JIS法第1条の法律の目的)	選定基準3 (産業標準化の利点・欠点)	選定基準4 (国が主体的に取り組む分野の判断基準)	選定基準5 (市場適合性に関する判断基準)	JIS素案作成委員会(WG)	作成開始予定
JSA	08 機械要素	改正	B1174	六角穴付きボタンのボルト	Hexagon socket button head screws	この規格は、ねじの呼びが M3 以上 M16 以下のもので、部品等級 A 及び規定する負荷能力をもつ六角穴付きボタンのボルト、並びに部品等級 A 及び規定する負荷能力をもつつば付き六角穴付きボタンのボルトの特性について規定したもので、2011年に発行されたISO 7380-1及び2 (Button head screws－Part 1: Hexagon socket button head screws及びPart 2: Hexagon socket button head screws with collar)を基に、2017年に改正された。対応国際規格2規格は、製造の実態に合わせるため寸法見直す、極限引張力をより正確に計算するため計算方法を統一するなどの対応が行われ、2022年に改訂された。JISにおいても同様な改正が必要であり、対応国際規格に整合させ、改正を行う必要がある。	この改正によって、一部に製造できない形状があるなどの問題が解消され、生産性が向上し、互換性が確保される。また、我が国で生産される六角穴付きボタンのボルトを国際規格と合致させることができ、国際的な商取引における障害を除去でき、円滑な国際取引が期待される。	主な改正点は、次のとおり。 ・寸法において、ボタンの頭部形状に対し、丸みを規定値どおりにすると、他の寸法が規定値から外れる場合があるため、丸みの中心位置の規定を改める。 ・寸法において、六角穴の深さの最小値は規定されているが、最大値が規定されていないため、引張力が作用した際の頭部の負荷能力を確保する目的で、その規定を追加する。 ・寸法において、市場で使われている呼び長さ100を追加し、JIS B 1009 (締結用部品－おねじ部品－呼び長さ及びねじ部長さ)などと整合するよう、呼び長さの最小値及び最大値の一部を改める。 ・最小極限引張力において、より正確に計算するために計算方法を変更・統一し、これによっていくつかの値を改める。 ・製品仕様において、ステンレス鋼の鋼種から、市場で使われていないA3及びA5を削除する。	－	ISO 7380-1, ISO 7380-2	MOD	第2条の該当号：1 (種類、形状、寸法、性能) 対象事項：ボタンのボルト	法律の目的に適合している。	利点： ア、ウ、キ 欠点： いずれも該当しない。		国際標準をJIS化するもの	一般社団法人日本ねじ研究協会のWG	2026年1月